

薬物乱用に関する意識調査

堀 奈々子 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 谷川 尚己

キーワード： 薬物乱用, 意識調査, 学校教育と地域教育

1. 緒言

薬物乱用とは、「医薬品を医療目的以外に使用すること、又は医療目的にない薬物を不正に使用すること」である。近年、芸能人や著名人だけでなく、一般市民の薬物乱用による事件・事故が多発している。

このようなことを受け、子どもたちはもちろんのこと、大人たち含む地域に向けても薬物乱用防止教育をしていく必要がある。

本研究は、指導的立場の少年センター補導員やスポーツ推進委員、学校教員（含む養護教諭、）薬剤師に意識調査を行い、人々が薬物に対してどのように考えているかを明らかにしようとした。そして、薬物乱用の蔓延を防ぐために、今後の学校教育や地域で、どのような指導をしていくべきかという方向性を示すことを目的に、本研究を行った。

2. 研究方法

指導的立場にある少年センターの補導員、スポーツ推進委員、学校教員（含む養護教諭）、薬剤師 計 173 名を対象にアンケート調査を行った。

3. 結果と考察

「以下の薬物について聞いたことがあれば、○をつけてください。」という質問に対し、大麻やシンナー等 8 種類については 90%以上が「知っている」と回答した。しかし、MDMA や LSD, エスやスピードなどの別名は認知度が 80%以下であった。また、文部科学省による平成 24 年度薬物等に対する意識等調査報告書の一部と比較したところ、同

じ傾向がみられた。

「学校における薬物乱用防止教育についてどのようにお考えですか。」という質問に対し、78.0%は薬物乱用防止教育について、不十分であると回答した。一方、十分であると回答した者は 12.1%、無回答は 9.8%であった。

「薬物乱用が発生したり、拡大したりしないために地域で取り組めることはどんなことがありますか。お考えがあれば記入してください」という項目に対し、「地域での啓発活動」「徹底した教育や研修会」「声かけ」等が挙げられた。

4. まとめ

本研究では、アンケート調査により薬物への意識を明らかにした。また、今後どのような薬物乱用防止教育をしていくべきなのかを明らかにした。学校教育と地域教育の 2 つの視点から薬物乱用防止教育をしていく必要がある。学校教育においては、発達段階に応じて適切な指導を継続的に行うこと、様々な時間を使って指導することが重要である。地域教育としては、子どもたちだけでなく大人に対しても指導していくことが重要である。さらに、学校教育、地域教育に共通していえることは、様々な専門機関と連携して薬物乱用防止教育を進めていく必要があるといえる。

5. 引用・参考文献

文部科学省 (2011) : 中学校学習指導要領解説 保健体育編 p157